

彩工房



株式会社 ディー・イー・シー
代表取締役 **森本均** 様



ウッドデッキとひとつながりの開放感(草津モデルハウス)



リビングと2階、互いに家族の気配を感じられる吹き抜け(施工例)



施主様と打合せを行うフロアから声をかければ、設計室(右側1階)や施工スタッフ室(右側2階)からすぐ返事が返ってくる、リビングスクエア「彩暮(さくら)」

住む人の健康と環境のために 木にこだわり、森と街をつなぐ家づくり

構造材と内装材のすべてに国内産の無垢材を使用し
壁や天井も珪藻土など化学物質を極力使わない自然素材で仕上げた住まい。
既存概念にとらわれない住宅は注目を集め、特に若い世代の共感を呼んでいます。
住まう人の健康や安全、環境への負荷まで考えた
彩工房様の家づくりについて代表取締役の森本均様にうかがいました。



今年8期目となる「京都鴨川建築塾」、建築家を招いて木造建築の実務に携わる人々の知識・意識の向上をめざす



植林活動を通して、お客様も森林を守る大切さを実感



内装木材はすべて、木になじみやすく塗布直後にも匂いが残らない、米を原材料とする100%自然塗料「キヌカ」で仕上げる

基礎の断熱材には、素材も加工も天然素材で、ホルムアルデヒドの吸着、防虫・調湿・吸震・断熱性のある「炭化コルク」を使用する



©彩工房

地元の森林を育てる活動として、京都北山にお客様といっしょに植林をしています。植えた苗は、少なくとも60年以上たないと家を建てられる木に育たないことを実感してほしいのです。木の家に少し手間をかけて大切に住む、60年経って自分の植えた木の家に建て替える、環境負荷の低い循環が実現できれば、これほど嬉しいことはありません。

木の家に住み、森に親しむ

一階にいても二階にいる子供たちの気配がわかります。階段もリビングを通るようにすれば、子供が外出したり帰宅したりする姿が自然に目に入ります。また、子供が自立した後の使いやすさを考え、小さな部屋をできるだけ作らないようにしています。「広がり間取り」は家族の成長や家族構成の変化を考えた自由度の高い間取りです。

当社では「広がり間取り」を推奨しています。これは、リビングを中心に家族の気配が感じられ、いつもコミュニケーションを図ることができるように考えた間取りです。例えば、リビングを吹き抜けにすれば、

家族構成の変化を考えた「広がり間取り」

今年8期目となる「京都鴨川建築塾」、建築家を招いて木造建築の実務に携わる人々の知識・意識の向上をめざす

脱・シックハウスをめざし
木のぬくもりを感じる家

今年創業90周年、初代は大工でした。高度成長期以降は公共工事などを手がけていたのですが、10年ほど前から改めて木造住宅に取り組み始めました。きっかけはシックハウスです。住む人の健康や安全、住まいに求められる癒しなどを考え、国産の木材でつくるべきとの思いを強くしました。木という素材は、家になつてからも呼吸しています。その特性を活かすためにも、育った森の環境に近い地元の木材を使うのが最適なのです。